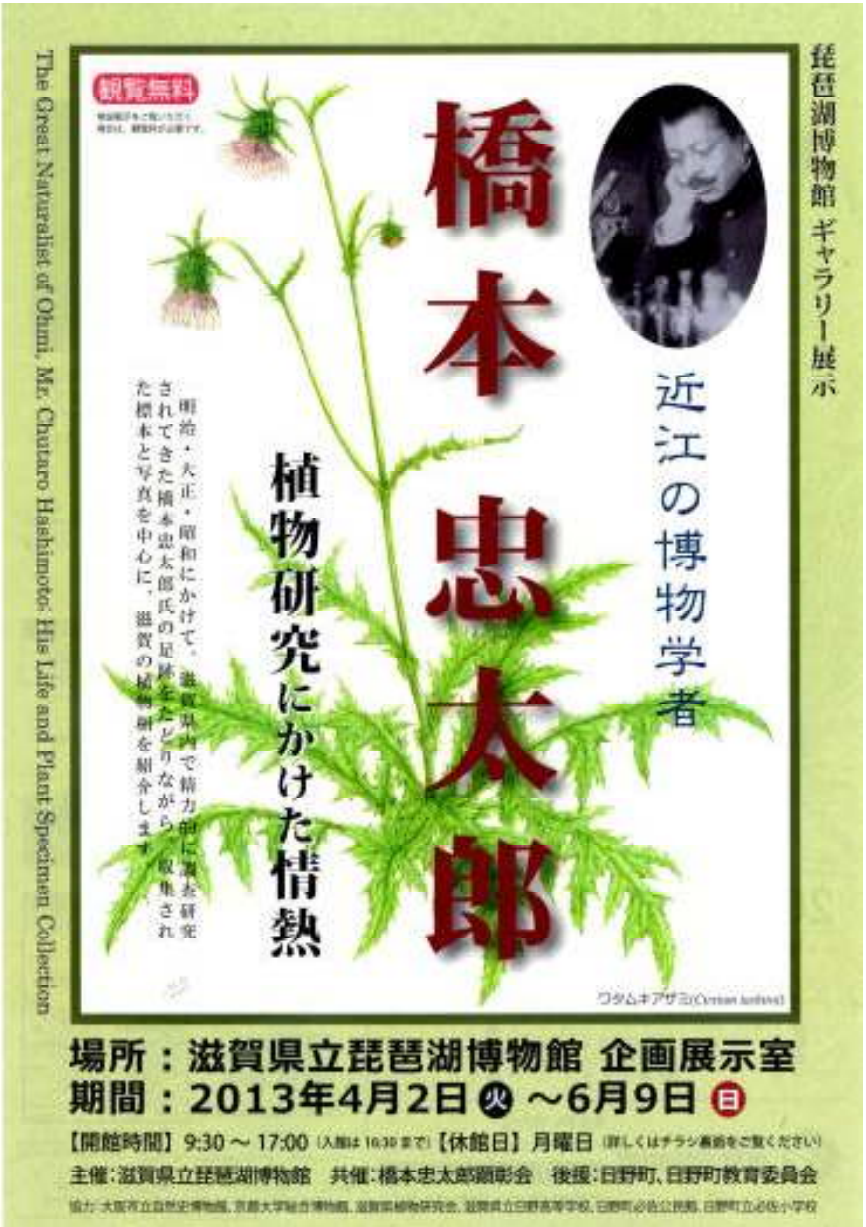
web

渓泉

滋賀県立日野高等学校
渓泉同窓会
2013. 5. 20.(月)

編集と発行：滋賀県蒲生郡日野町上野田150 日野高等学校内 事務局 0748-52-1200



本校メタセコイアゆかりの植物学者の標本展

一緒に見に行きませんか

6月2日(日)午後1時30分 日野高校集合、琵琶湖博物館へ

５月14日、新年度第1回常任幹事会が開かれ、前年度末の幹事会で提案された橋本忠太郎博士の標本展への見学会が具体化されました。6月2日(日)13時30分に母校前庭へ集合、乗用車に分乗して見学に行くことになりました。期日が迫ってますので、全会員への呼びかけには至りませんが、常任幹事を中心に一般会員･会員外の方の参加も歓迎します。参加希望者は日野高校同窓会事務局･蜷川までご一報ください。ギャラリー展のみの入場は無料。

平成 23･24 年度活動総括

【平成 22 年度までの取り組み】

平成 17 年(2005 年)に創立 100 周年を迎えた滋賀県立日野高等学校は、一学年４学級の総合学科の高校として、地域になくてはならない存在となっています。

17,000 人を超える本会の会員は、地域のみならず各界･各分野で多数活躍し、在校生に元気を与える存在となっています。

ところが、本会はしばらく総会等の定期的な活動を休止した状態が続いていました。このままでは近い将来に予想される高校再編計画等に対応できないのではないか、という会員諸氏からの声を受けて、平成 22 年(2010 年)２月に６年ぶりに常任幹事会を開き、日常的な活動の再建に向けて取り組んできました。

その後、平成 22 年度より同窓会報『渓泉』を発行(復刊)、学校ホームページ(ＨＰ)内にその電子版『Ｗｅｂ渓泉』を設けて、随時更新してきました。

また、同年には県の高校再編計画による日野高校の統廃合問題が懸念される中、「県立日野高校の存続を求める請願」をＰＴＡ・後援会と本会の三者連名で町議会に提出、11 月には同趣旨の要望書を知事と県教育長に提出しました。

並行して、秋より役員選考会を重ね、新役員の選出に取り組み、平成 22 年度末に門坂新会長、藤澤・西田両副会長体制を確立しました。

【平成 23･24 年度の取り組みと展望】

この２年間は、新体制を軌道に乗せる期間であり、常任幹事会の定例化、会報『渓泉』の年１回の発行、『Ｗｅｂ渓泉』の更新などを定着させてきました。

また、平成 24 年 1 月には総会を行い、これまでの経過報告、会計決算・監査報告、の承認を受け、23･24 年度の活動方針案を採択しました。

ただ、この 2 年間は組織活動・広報活動中心で、事業の取り組みにまでは至りませんでした。

壮年世代の長時間･過密労働、若者の雇用不安等の社会環境の中で、組織活動全般を忌避する傾向や、同窓会を足場に「個人情報」を悪用する行為などによって、多くの同窓会活動は以前にも増して困難なものとなっています。

本会の場合、しばらく活動の空白期間があったこともあり、その再生は容易ではありませんでした。

しかし、県の高校再編計画は、彦根西高、長浜北高などの歴史と伝統をもつ高校でさえ、統廃合の対象と無縁でないことを明らかにしました。そうした情勢のもとで、今後第二、第三の再編計画が予想されます。本会の存在意義はますます重要になっていると言えましょう。

平成 25･26 年度活動方針･事業計画

（１）会員相互の連携･親睦の場として、組織活動・広報活動を重視します。

①会則第７条および第 10 条の規定を念頭におきつつ、当面総会を 2 年に一度行い、常任幹事会を随時行います。

②会報『渓泉』の定期刊行（年１回）体制を確立し、平成 25 年度に第４号を、平成 26 年度に第５号を発行します。

③情報化･速報化の時代の要請に応え、会報の電子版『Ｗｅｂ渓泉』を日野高校のホームページ(ＨＰ)内に設け、随時更新します。

http://www.hino-h.shiga-ec.ed.jp → 渉外 → 同窓会

④学年･学級･地域同窓会などの情報提供･連携に取り組みます。
また､同窓生の活躍情報を把握し､取材･寄稿などを通して多くの同窓生に広めます。

⑤ひきつづき、母校の卒業式まえに同窓会入会式を行い、新会員を迎えます。

⑥個人情報の保護に留意した上で、会誌『渓泉』(名簿)の定期的発行(5 年に一度)をひきつづき行います。
次号第 14 号は平成 28 年(2016 年)に発行予定となります。

（２）総会、組織活動、広報活動以外に年に１～２回程度、会としての事業を行います。
できるだけ、地域や本会会員と関わりのある事業をめざします。
当面、本年度は琵琶湖博物館で開催中の「近江の博物学者･橋本忠太郎－植物研究にかけた情熱－」を新旧の役員･常任幹事の研修会というかたちで行います（一般会員や会員外の方々の参加も歓迎します)。

（３）母校の充実と発展に寄与する活動に取り組みます。

①生徒数減にともない、生徒会費･学校後援会費の収入が減少するなか、母校生徒会係からの要請を受けて平成 24 年度から始めた「部活動奨励金」（年額 20 万円）をひきつづき支出します。

②母校の教職員･在校生や地域の人々とともに魅力ある学校づくりの一翼を担います。

③県教育委員会の「高等学校再編計画」が、今後日野高校に及ぶことも懸念されます。
「蒲生野に文化の使命をにない一世紀」、歴史と伝統のある、地域になくてはならない存在としての日野高校の存続･充実･発展のために、必要に応じて学習や運動に取り組みます。